



所長の部屋



今さら聞けない病気の常識 : ⑫ 硬膜下血腫

京都府南丹保健所長 時田 和彦

まずは解剖の勉強から。①脳の外側には、②くも膜という薄い膜があり、その外側には③硬膜というしっかりした膜があり、さらに外側には④頭蓋骨があります。①の中で出血すると脳出血、①と②間の出血がくも膜下出血、②と③の間に血液が溜まると硬膜下血腫、③と④の間だと硬膜外血腫となります。難しいですか？

医学生の間でも、硬膜下血腫と硬膜外血腫は混同されやすく、医師国家試験でも両者の違いが出題されます。CT 写真で見ると、硬膜下血腫は三日月形、硬膜外血腫は凸レンズ形をしていることが多いようです。

さて、今回は硬膜下血腫についてです。硬膜外血腫と同様、交通事故などの強い外傷に伴うことも多く、その場合は脳の損傷、すなわち脳挫傷による症状がしばしば前面に出ます。生命を含めた予後は、脳挫傷に左右されることが多いです。

しかし脳挫傷を伴わない場合で、特に高齢者などで注意が必要なことがあります。それは軽い頭部の打撲が原因で、比較的細い血管が切れて、ゆっくり血腫が広がる点です。例えば転倒して頭部を打った高齢者が、数週間して症状が出現する場合などです。まるで認知症が次第に進行しているように見えることもあります。

治療は、脳挫傷を伴う場合は総合的に判断します。脳挫傷を伴わず、ある程度の大きさの血腫のみの場合は手術をします。硬膜下血腫という病気も、ぜひ覚えておいてください。